

令和5年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 大阪大学附属図書館箕面図書館課外国学図書館班
3. 件名 : 大学図書館と市立図書館の一体的運営による地域連携の取り組み
4. 結果 : 採択
5. 理由 : 本件は、国立大学法人が国内初の公立図書館の指定管理者となり、大学図書館と公共図書館を一体的に運営することによる地域連携の取り組みである。

大阪大学の箕面キャンパス移転に伴い、新キャンパスは「OU グローバルキャンパス」として地域や社会、市民との共創の場所として位置づけられた。大阪大学外国学図書館と箕面市船場図書館が融合する施設が整備され、大阪大学附属図書館は学内外の関係組織と協力体制を構築し、一体的運営に取り組んでいる。

新図書館開館後、入館者数は移転前（旧市立図書館＋外国学図書館）の1.8倍、市民への大学図書館蔵書貸出冊数も4倍以上となるなど利用実績を上げている。また、図書館が大学と市民とのハブとなり、大学及び大学図書館のリソースを活用して地域社会に向けた交流イベントを開催するなど、地域・社会と共創する場としての先導的な役割を果たすことに成功している。

実務を行う上では、公共図書館機能に対応できるよう箕面市立図書館と連携し、実地研修をはじめ組織的な人材育成を行っており、業務の習熟に留まらず、融合施設に適した運営の検討・実践等を行い職員のスキルアップに繋げている。

大学図書館と市立図書館が融合する施設として新たな課題が生ずることも予見されるが、一方で、市民への大学の開放、市と大学の連携・協働、生涯学習支援、社会人学生の進学誘引等、新たな観点での大学図書館の役割と可能性に繋がることが期待できる。

以上のことから、本件は、ビジョン2025「目標2-2：社会・地域に開かれた知の創出空間の提供」の達成に貢献する取り組みであり、「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第4号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。